

グリーンインフラ推進戦略2030(概要)(案)

国土交通省 総合政策局 環境政策課



「グリーンインフラ推進戦略2030」概要①

- 世界各国におけるNbSに関する取組の進展や、国内における「第六次環境基本計画」をはじめとした、環境・地域活性化・防災等に関する様々な政府計画の策定などを踏まえ、前戦略（2023年9月）を全面改定し、**新たに「グリーンインフラ推進戦略2030」を策定。**
- 本戦略では、2025年6月に策定した「国土交通省環境行動計画」に係る実行計画としての位置づけを明確化し、**2030年度までを計画期間**として位置づける。
- 本戦略のポイントは以下の3点である。
 - ① グリーンインフラの**定義や効果、特徴**などの概念的な整理を実施。
 - ② 更なる実装に向けた**基盤づくりに関する取組**と社会課題解決に向けた**国土交通省の施策を体系的に整理**。
 - ③ グリーンインフラに関する**KPIを初めてとりまとめ**。

【① グリーンインフラの定義や効果、特徴】

グリーンインフラの定義

グリーンインフラとは、**自然の多様な機能を活用した社会資本**であり、将来にわたり持続可能で魅力ある国土・都市・地域づくり及びウェルビーイング向上に貢献するもの。

これは、人と自然の関わりから形成されるものであり、戦略的な計画、持続的な維持管理、幅広いステークホルダーの参画などを通じてより大きな効果の発現が期待できる。

グリーンインフラの効果

自然の多様な機能

- ・ 生息地保全
- ・ 水源涵養
- ・ 雨水の貯留・浸透
- ・ 水質・大気質の維持・改善
- ・ 気温の緩和・調整
- ・ 緑陰形成
- ・ 景観形成 など

インフラとして活用

環境的効果

- ・ 生物多様性の保全
- ・ 健全な水循環の保全
- ・ 良好的な生活環境の形成
- ・ 気候変動の緩和 等

社会的効果

- ・ 食料の安定供給
- ・ 健康増進
- ・ 防災・減災
- ・ 子育て・教育
- ・ 地域コミュニティの形成 等

経済的効果

- ・ 不動産価値の向上
- ・ にぎわいの創出
- ・ 観光振興
- ・ 移住・定住・二地域居住
- ・ 生産性向上 等

ウェルビーイング
の向上

グリーンインフラの特徴

- ・ 多様な効果を発揮するため、**複数の社会課題への対応策**となり得る。
- ・ 古来より自然の特徴を活かしつつ自然と調和した営みが行われてきたことにより、地域の気候、風土に応じた特徴ある**地域性**を有する。
- ・ 緑地や水が**ネットワーク**としてつながることでより一層その効果を高めることができる。
- ・ 自然は**成長力・回復力**を有するため、地域のレジリエンスを高める選択肢となる。

グリーンインフラが目指す社会像

「グリーンインフラの活用が当たり前の社会」の実現を図り、
2050年に向けて「自然共生社会」の実現を目指す。

「グリーンインフラ推進戦略2030」概要②

【② 基盤づくりに関する取組・国土交通省の施策】 【③ グリーンインフラに関するKPI】

グリーンインフラの更なる実装に向けた **6つの基盤づくり**

- i) 国民的な機運・理解の醸成 ii) 多様な効果の見える化 iii) 官民の取組を促進する環境整備 iv) 資金調達の円滑化 v) 新技術・DXの活用 vi) 国際展開

GREEN×EXPO 2027 (①国民的な機運・理解の醸成)

グリーンインフラにより、持続可能で安全かつ魅力ある都市の土台づくりを国内外に向けて提案する。 **KPI : 来場者数1,000万人**



**EXPO
2027**
YOKOHAMA JAPAN



国際標準化 (⑥国際展開)

COP等の国際会議の場でのアピールや日本主導のグリーンインフラの国際標準化に向けた検討を進める。 **KPI : 2027年度までにISO化**



グリーンインフラの実装による **7つの社会課題**への対応

- i) 持続的で快適な都市・生活空間の形成 ii) 防災・減災 iii) 暑熱対策 iv) 生物多様性の確保 v) 地域経済の活性化 vi) 温室効果ガスの削減 vii) 循環型社会の形成

都市緑化・道路緑化

都市公園の整備や既存の緑地の保全・再生
民間事業者等による優良な緑地確保
適切な維持管理による道路緑化を推進

**KPI : 都市域における水と緑の公的空間確保量15.2m²/人
(R5 : 14.2 m²/人)**



新柏クリニック（柏市）

流域治水との連携

災害リスクの低減に寄与する生態系の機能の積極的な保全又は再生を図る。

KPI : 河川整備計画に河川環境の定量的な目標を位置づけた割合43% (R6 : 0%)



円山川水系に整備された大規模湿地

ブルーインフラの保全・再生・創出

ブルーインフラ（藻場・干潟等及び生物共生型港湾構造物）の保全・再生・創出を通じたブルーカーボンの活用を図る。

KPI : 2035年度のブルーカーボンのCO2 吸収・固定量100万t-CO2 (R5 : 34万t-CO2)



海草藻場

「グリーンインフラ推進戦略2030」概要③

グリーンインフラの更なる実装に向けた基盤づくり【第4章】

「グリーンインフラの活用が当たり前の社会」の実現に向けて取り組んでいく6本柱を整理し、関連施策を強力に推進。

国民的な機運・理解の醸成

- きめ細やかな広報活動の展開
- 市民活動を通じた地域コミュニティの形成による地域での担い手の確保
- GI大賞、TSUNAGなど先駆的な取組を表彰する制度の拡充及び先進事例の横展開
- GREEN×EXPO 2027を通じた機運醸成 等

多様な効果の見える化

- グリーンインフラの実装による社会課題解決への実効性および貢献度の定量的・定性的な評価手法の運用に向けた検討
- 様々な活用場面や目的ごとに検討を進め、活用できるものから順次実装

官民の取組を促進する環境整備

- ノウハウの標準化による技術的支援
- 維持管理手法に関するガイドライン作成
- 中間支援組織が活動しやすい環境の整備
- 講習会の周知などによる人材育成の強化
- 事業評価スキームへの導入可能性の検討
- 緑の基本計画への位置づけを促進 等

資金調達の円滑化

- 資金調達手法の検討・モデル化
- 自然の価値を金銭価値として取扱い売買する仕組み（クレジット等）の導入・活用を検討 等

新技術・DXの活用

- 要素技術・モニタリング技術等の技術開発支援
- 自然関連の情報の整備・集約及び利活用の促進
- 要素技術等に関するニーズとシーズのマッチング促進 等

国際展開

- 日本主導の国際標準化に向けた検討等を行う
- COP等の国際会議の場でのアピールを行う 等

社会課題解決に向けたグリーンインフラの実装【第5章】

7つの社会課題に対して、国土交通省の各局が所管する施策及びグリーンインフラ官民連携プラットフォームの取組を着実に実施。

持続的で快適な都市・生活空間の形成

- 都市公園の整備による身体的な健康の増進
- 居心地がよく歩きたくなる交流・滞在空間
- 道路緑化等による歩行空間の充実
- 河川空間の利活用による魅力や価値の向上 等

防災・減災

- 都市緑化による耐火性・道路緑化による防災性の向上
- 災害時の避難場所・避難路としての活用
- 水害リスクの低減に寄与する生態系の機能の保全
- 都市山麓グリーンベルト整備事業の推進 等

暑熱対策

- 屋上緑化や壁面緑化による蓄熱の防止
- 連続した緑地の確保による風の道の形成
- 街路を軸とした緑陰の連続性の向上
- 都市空間における緑陰施設の整備 等

生物多様性の確保

- 都市緑地の保全、再生、創出
- 流域全体での生物多様性の保全・再生
- ブルーインフラの保全、再生、創出
- 砂浜の保全・回復 等

地域経済の活性化

- グローバル企業の拠点にふさわしい環境整備
- 魅力ある公共空間の利活用による賑わい創出
- グリーンインフラの観光資源化
- 魅力ある地域づくりによる二地域居住 等

温室効果ガスの削減

- 都市緑地の保全・創出による吸収源対策
- カーボンニュートラルに資する街路樹管理
- ブルーインフラの保全、再生、創出
- 歩行空間の拡充によるCO₂排出量の削減 等

循環型社会の形成

- 剪定枝や落ち葉等のチップ化、堆肥化等による有効活用
- 建設発生土の有効利用や適正利用 等

計画の進捗管理（ロードマップ及びフォローアップ）【第6章】

基盤づくりに関する取組及びグリーンインフラの実装に関する施策について、ロードマップを作成し1年に1回フォローアップを行う。